

平成30年度 大阪府立摂津支援学校 第3回 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 平成31年2月25日(月) 10:00～12:00

2 場 所 本校 会議室〔2階〕

3 出席者 〈学校協議会委員〉

西野 陽一 (大阪工業大学) 大矢 優子 (摂津市教育委員会)

松元 広美 (ダイキンサンライズ摂津)

熊谷 達也 (茨木・摂津障害者就業・生活支援センター)

中井 啓夫 (高槻市柱本自治会) 横路 優香 (本校 PTA 会長)

〈摂津支援学校〉

校長 (大峠) 教頭 (川村・南) 事務長 (洲本) 首席 (小野・中島)

首席兼教務部長 (坂部) 首席兼高等部主事 (三牧) 部主事 (内海・平水)

〈傍聴者〉 1名 (本校保護者)

年間テーマ及び協議事項 「明日も行きたくなる学校」をめざして

主な内容 ①学校教育自己診断の結果報告 ②授業アンケート結果報告

③今年度の進路報告 ④今年度の総括およびH31年度の学校経営計画

4 内 容

(1)はじめに

・校長あいさつ

お忙しいところ集まって頂きありがとうございます。本校では、一時はインフルエンザが多かったが今はおさまってきた。子どもたちは、各学部とも卒業式に向けて練習に励んでいる。

この第3回協議会は、学校経営計画が議題の一つになる。今年度の評価を見て頂き、また次年度に向けてもご助言頂きたい。

・会長あいさつ

今年度最後の運営協議会となり、この場で次年度学校経営計画の承認をする必要がある。有益で活発な協議となるよう、委員の皆さまにはご協力をお願いしたい。

(2) 学校より 報告・協議・承認事項〔進行：会長 記録：教員〕

①学校教育自己診断の結果報告〔首席より資料およびパワーポイント説明〕

[教員] 実施時期、実施方法は資料の通り。今回は特に保護者からの回収率を上げるため、担任で一旦提出チェックを行い、未提出者には質問紙を再配布することで提出率が大幅にアップした。教員は100%の提出をめざしていたが2名提出がなく、98%となった。

[委員] なぜ2名の教員が未提出なのか？

[教員] チェック票は全員〇がついていた。診断票自体は無記名。うっかりミスなのか、あえて提出して

いないのか、追跡のしようがなく、わからない。

[委員] 教職員用の項目 43. は 1 名が D となっているが、服務規律を自覚していないのか？

[校長] これも追跡できない。書き間違いの可能性も否定はできない。

[委員] 全体的に肯定的回答が多く、とてもよい。ただ教員については、控えめなのか肯定的意見でも A は少なく B が多い。特に項目 48. 49. は A より B が圧倒的に多いため、課題を内在しているのではないか気になる。初任者や経験の少ない先生方のレベルアップの問題と連動しているのではないか。

[校長] 例年、本校では同様の結果になることが多い。研修等、改善していく必要を感じている。後ほど次年度の経営計画にて説明したい。

[委員] このような自己診断アンケートはどここの学校でも実施しているのか？

[校長] 大阪府内の公立学校なら実施している。内容的にもほぼこのような項目である。

[委員] 設問がとても幅広く、分析も非常に細かくされていた。ただ、肯定的意見、否定的意見の割合やその増減等、統計上の数字に着目した分析を行うのではなく、質問内容から本当に教育的に重要な項目に着目した方がいいのではないか。例えば「いじめ」について、生徒用（文章版）では 12. 「先生はいじめについて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」で、否定的回答 C、D を合わせると 65 人中 10 人で約 15% となる。対して教員用では 16. 「いじめが起こった際の体制が整っており、迅速に対応することができている」に 90% 以上が肯定的回答をしている。なぜ乖離しているのか。このあたりの真の教育上必要な分析をすることが大切だと思われる。

[委員] 先ほどのいじめについて、アンケートの実施は？

[校長] この自己診断とは別にいじめアンケートも毎年実施している。結果は HP にもあげているが、今回のアンケートで新たに発覚したいじめ案件はなかった。「しんどい」などの回答については全て個別に担任が聞き取り、すでに対応継続中の案件や、解決済みものと確認している。だからと言って安心せず、引き続き常に見守りが必要と認識している。

[委員] 自己診断の回収率上昇は非常によい傾向と思われる。他校を見ても、回収率の高い学校は、保護者が学校に信頼を寄せており、一般的に肯定的回答が高い傾向にある。また、児童生徒向けの質問項目が、あいまいな表現を避けるように改定され、良かった。部活や学校行事についての項目で特に高いということは、学校生活が充実していると実感している子どもさんが多いということ。この結果をただ「よかった」として済まらずに、その原因をていねいに分析することが重要と感じる。気になるのは教職員用の 33. 「教職員は PTA 活動に協力している」の否定的回答の多さ。例えば日曜参観の授業終わりに、その後の PTA 総会参加を呼びかける、学級委員選出の場で声かけやお手伝いをする、学校祭の PTA 模擬店の景品を寄付するなど、全て PTA 活動への協力となる。どんな形で先生方が協力できるのか、具体的に示した方よい。

[委員] 細かいことだが、保護者意見欄にある「トイレに荷物用フックについて」は昨年度も出ていたと思うが、どうなったのか。

[教頭] 現在、中高等部棟 1 階の下足室横トイレにはフックがついている。2 階 3 階は生徒も使用することから、安全面についても考慮して検討中である。

[委員] 現時点でフックのあるトイレの位置を、何かの形で周知していただきたい。

[会長] 今年度の自己診断は非常に肯定的な意見が多く、また細かく分析されていた。だからこそ、この

場でご意見のように、肯定的回答の A と B の違いや学部間の比較、また同じ項目についての教員と生徒の回答の横断的な比較など、分析を続けてほしい。

③進路状況報告 [教員より資料説明]

[会長] ここで次第の順番を入れ替え、③進路状況報告を先に協議したい。

[教員] 〈今年度進路状況〉今年度高 3 の人数は 29 名、1 名のみ本人保護者の希望で在宅就労、その他 28 名は進路先が決定している。ここ 1、2 年の傾向として、就労継続支援 B 型の利用が多い。理由として、本人の作業力を活かしてステップアップしたい、自主通勤でなく送迎があるところを選びたいという保護者のニーズに応えた B 型事業所が増えてきたためと思われる。

〈過去 3 年間の離職状況〉アフターフォローについては、卒業後 1 年未満の生徒は学校が中心に動きながら、就業・生活支援センター（以下就ポツ）さんと連携して実施。また 2 年目以降の生徒については就ポツさんが中心で、学校も協力しながら実施。会社等から連絡があると、本人を呼び出して面談するなどしてフォローしている。

[委員] たしかに離職に関する相談等は就ポツが学校と協力して行っているが、本人との関係性が大切であり、学校の先生の方が本人をよく知っているため、フォローもスムーズ。卒業後 2～3 年頃までは学校中心に動いていただきながら、就ポツも一緒に関わる中で関係作りができると思う。

②授業アンケート報告 [川村教頭より資料説明]

[教頭] 学校生活の大半を占めるのは授業であり、教員は児童生徒が授業をどう受け止めているかということを知り、改善に活かしていかなければならない。その一助とするため、年間 2 回、授業アンケートを実施している。

アンケート結果から、「授業がわかりやすい」と「その授業をもっと受けたい」ことは必ずしも合致しないということが浮かび上がった。教員は研修などを通じて、常に魅力ある授業を追求していく必要がある。また「ほめられているか」という問いに、「そう思わない」「わからない」などの回答がいくつか見受けられた。教員のほめ方が不足しているか、ほめてはいるが子どもたちに届いていないのではないかと思われる。このようなアンケート結果、保護者からのご意見、および管理職による授業参観での気づき等は、個々の教員に面談などで伝えたりしている。

[委員] 学校経営計画にも「いい授業をする」という文言があるが、いい授業とは果たしてどのような授業なのか。いろいろな「いい授業」があると思う。子どもたちにとっては、よくわかる、というだけでなく好奇心をかきたてられるような内容が「いい授業」になると思われる。

④学校経営計画について [校長による資料説明]

[校長] まず今年度の評価として、2. 中期目標の 2. 「子どもにとって『いい授業』を追求する学校」の項目については、たとえば (2) 授業力向上の「TT 連絡票」「授業略案」は取り組んでいる教員と、取り組めていない教員が両方いるという実態が明白になった。早急に改善していきたい。例年経営計画は、1 2 月頃に校長・教頭に対して府からの指示事項として出される。31 年度に向けては特に「働き方改革」について、指示内容として盛り込まれていた。またその後、様々な事件を受け「虐待を見逃さない」との口頭指示が出たことから、本校でも特に不登校生徒について

の対策を新たに盛り込んだ。評価、計画ともご意見を頂きたい。

[委員] 自己評価について、◎が目標値以上の達成、○が目標値の達成、△が未達成という認識でよいか。であれば、30年度の3.「本年度の取組内容及び自己評価」(p.2～)について、1.(1)①「人権対応委員会を中心とした人権教育」、2.(1)②「公開授業週間の活性化」、2.(2)①「TT連絡票の導入」、2.(2)②「初任者等の育成」、2.(3)①「研究紀要の発行と報告会」、2.(3)②「各学年で月1回事例検討の実施」、3.(2)①「地域行事への積極的な参画」については(○)ではなく(△)になると思われる。また、3.(2)②「地域の方々とともに学ぶ」の項目の評価「摂津ロータリークラブ」の植栽講座は評価指標として適切なのか疑問である。

[校長] ご指摘の項目は記入ミスであり、確かに△であっている。また、3.(2)②については、目標にある「地域の方々」の書き方が曖昧であった。「市民」と捉えると、公開授業や公開研修は実施できているが、「この学校近辺の地域住民」対象の講座という意味では実施できていない。

[委員] 授業スタンダードの中身は、具体的にどんな物か？

[校長] いわゆる授業に関する本校のルール。どの授業も全く同じでないといけないわけではないが、おおまかな授業の流れや授業環境に一定の基準を示したい。

[委員] 授業のルールに関しては、視覚支援、聴覚支援、授業のめあてや流れの提示など、ぜひ確立してほしい。また経営計画自体にも、その具体的内容を入れ込んで頂きたい。

[会長] 30年度と31年度を比べると、「めざす学校像」は大きくは変わっていない。「中期的目標」は1.「明日も行きたくなる学校」が「安心・安全の教育を進める学校」に、2.は項目をまとめた形に、また4.が新たに新設されている。他に何かご意見があれば。

[委員] 不登校生徒への支援について、子どもたちの学校での居場所作りを通して、未然防止が大切かと思われる。地域では例えば、摂津五中で不登校支援の取組みをして、一定の効果をあげている。ぜひ取り組んで頂きたい。その他の項目についても、評価指標を再考して、スモールステップで着実に改善されるよう期待したい。

[委員] キャリア教育について、この学校で中学部から高等部に進学したら、大きく教育内容が変わったことに疑問を持っておられる保護者にお会いしたことがある。その点をお聞きしたい。

[校長] 同じ学校であっても中学部と高等部では教育課程が異なり学部独自のカリキュラムがある。また本校は2校が併設されていることもあり、環境的に特別教室やその他施設について、同様にできない部分もある。しかし必要などころは変えていかなければいけないとは思っている。

[委員] 1.「安心・安全」の部分で、いじめ、虐待や体罰に関して、生徒間だけでなく、保護者から子どもへ、教員から子どもへというケースもあり得るが、どのように問題を把握するのか、また把握した場合の通報体制などはどうなっているのか。

[校長] いじめについては先ほどもあったように、「いじめアンケート」を実施している。記入できない子どもは保護者による回答をお願いしている。学校での体罰に関しては、世間でニュースになるような事例は、支援学校では原則教員は複数体制を取っていることから、ほぼ無いと考えられる。どちらかと言えば家庭内の人権侵害がウェイトを占めている。本校では人権問題対応委員会等が組織的に機能している。

[委員] 当たり前のこととして実施されることも、具体的に記入した方が良い。

[委員] 居住地校交流について、積極的に要望される保護者が少ないと感じる。学校側は交流を希望する

かしないかの問いかけだけでなく、実施する場合の方法やメリット等詳しく提示して、保護者が希望しやすいようにして頂きたい。

[会長] 31年度計画について、承認される委員の方は挙手をお願いしたい。(全員が挙手) ありがとうございます。

(3) まとめ

[会長] 皆さまのご協力で何とか経営計画の承認まででき、感謝している。

次年度、もし仮に校長先生の異動でこの経営計画に変更が生じた場合、何らかの形でまた、委員の皆さまにご連絡することになる。その場合はよろしくをお願いしたい。

[校長] 1年間本当にありがとうございました。もし校長の異動等があっても、委員の皆さまの任期は2年間ということなので、次年度もぜひよろしく申し上げます。

(4) 事務局より諸連絡

[教員] 次回は、次年度7月頃になる見通し。また改めてご連絡させていただく。本日はありがとうございました。

【配付資料一覧】

- ①② 次第・学校運営協議会名簿
- ③ 学校校教育自己診断結果報告資料
- ④ 授業アンケート結果報告
- ⑤ 今年度進路報告
- ⑥ H30年度学校経営計画及び学校評価
- ⑦ H31年度学校経営計画及び学校評価